



2023年
世界文化遺産登録5周年
長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

登録5周年 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

長崎の歴史と結びついた世界遺産

世界遺産室
☎ 829-1260

長崎と天草地方の潜伏キリシタン年表

出来事

1614年
全国に禁教令

1637年
島原・天草一揆が起こる

幕府が鎖国を確立。
宣教師が居なくなつたことで、
残された信徒は独自の方法で信仰
を続けることを余儀なくされた。

1644年

国内最後の宣教師が殉職

キリシタンは、密かに信仰を続
けるため、独自の信仰を模索。
日本の伝統的宗教などと共生し
ながら、密かに信仰を続け、地域
によって多様な信仰形態が生まれ
た。

構成資産

原城跡
(南島原市)

平戸の聖地と集落
(平戸市)

・春日集落と安満岳
・中江ノ島

天草の崎津集落 (天草市)

外海の出津集落 (長崎市)

外海の大野集落 (長崎市)

長崎と天草地方の 潜伏キリシタン関連遺産

17〜19世紀の2世紀以上の間、日本
ではキリスト教禁教政策が行われてい
ました。そんな中、長崎と熊本県天草
地方では日本の伝統的宗教や一般社会
と共生しながら、キリスト教の信仰を
続けた潜伏キリシタンがいました。

この潜伏キリシタン独特の文化的伝
統の継承を証明するものとして、平成
30年に世界文化遺産に登録されまし
た。

12の構成資産で

語られるストーリー

この世界文化遺産は、長崎と天草地
方の8市町に点在する12の構成資産か
らなります。潜伏キリシタンがどのよ
うに信仰を続けたのか、キリスト教が
解禁後にどのように変化していったの
かという「潜伏のきっかけ」潜伏の終
焉」のストーリーです。

その中で、市内には3つの構成資産
があり、今回はその資産をご紹介。
登録5周年のこの機会に、ぜひ訪れ
てみませんか。



1700年代後期 離島への開拓移住

外海地区の人口が増加し、五島列島などへ開拓移住が行われる。開拓移住者の中には潜伏キリシタンが多く含まれていた。

潜伏キリシタンは、移住先の住民や社会、宗教と共存できるか考えて移住先を選び、密かに信仰を続ける。

1854年 日本が開国され 長崎に宣教師たちが訪れる

居留地の外国人のために「大浦天主堂」を建設。

1865年 信徒発見

密かに信仰を続けてきた潜伏キリシタンの一人が大浦天主堂の宣教師に信仰を告白したことをきっかけに、潜伏キリシタンに転機が訪れる。

1873年 キリスト教が解禁

潜伏キリシタンは、禁教期の信仰形態を続ける者、カトリックへ復帰する者、神道や仏教などに改宗する者に分かれた。

黒島の集落
(佐世保市)

野崎島の集落
(小値賀町)

頭ヶ島の集落
(新上五島町)

久賀島の集落
(五島市)

奈留島の江上集落
(五島市)

大浦天主堂
(長崎市)

聖画像を密かに拝んで信仰を続けた 外海の出津集落

長崎市の外海地域にある出津集落。この集落は構成資産の中で、潜伏キリシタンが信仰を続けながら暮らした集落の1つです。

禁教期には、表向きは仏教寺院に属しながら、宣教師に代わる指導者をおいて組織的に信仰が続けられました。

「オラシヨ」と呼ばれる祈りの言葉を口承で伝えたり、聖母マリアをかたどった青銅製の大型メダル「無原罪のプラケット」や禁教期初期に描かれた聖画像などを密かに拝んだりすることによって信仰を深めました。

また、潜伏キリシタンが信仰対象として拝んでいた中には「イナツシヨさま」という銅製の仙人像をキリスト教のイエズス会創始者イグナティウス・ロヨラに見立てたものもありました。(左写真)



長崎市外海歴史民俗資料館所蔵

シタン)とに分かれました。

そして、1882年には、ド・口神父が集落の中心部に「出津教会堂」を建てました。この教会堂は、出津集落における「潜伏」が終わったことを象徴しています。その後、教会堂は二度の増改築を経て、現在の姿になりました。

集落内には長崎市外海歴史民俗資料館があり、外海地区のキリスト教や集落に関する資料、「イナツシヨさま」なども展示されています。

また、禁教期に集落を管轄した代官所の跡地にド・口神父が創設した旧出津救助院などがあります。潜伏キリシタンの「潜伏」が終焉に向かう移行期などについて解説しています。



禁教が解かれた後の潜伏キリシタンは、カトリックへ復帰する者と、禁教期の信仰形態を継続する者(隠れキリ





外海地域にはもう一カ所、キリシタンが信仰を続けた構成資産、大野集落があります。

大野集落の潜伏キリシタンは、集落内の3つの神社である大野神社、門神社、辻神社の氏子として振る舞いました。集落の門神社と辻神社に密かに信仰対象をまつり、オラシヨを唱えるなど、元からあった宗教と自らの信仰の場所を共有する信仰形態をとりました。

門神社では元からさまざまな神様がまつられていて、その中に潜伏キリシタンの信仰対象を密かに重ね、まつたと伝えられています。また、辻神社

でも自然信仰にもとづく山の神様に信仰対象を重ね、密かに信仰していました。

キリスト教の解禁後、大野集落の潜伏キリシタンは出津教会堂へ通っていましたが、1893年にド・ロ神父によって集落の中心に大野教会堂が建てられました。

この教会堂は、赤土に石灰を混ぜた目地材と周辺でとれる玄武岩を用いた「ド・ロ壁」と呼ばれる独特の壁で作られています。

※教会堂内は立ち入り禁止です。



信仰の強さを伝え続ける ~ 大野教会 教会守 ~

大野教会の教会守を務める大串さんは、大野集落に近い赤首町の出身。小さい頃から出津教会や大野教会に通い、ミサに参加してきました。現在は大野教会の教会守になり、教会の管理や訪れた人に教会の説明などを行っています。

大串さんは、「一人でも多くのかたに大野教会を訪れてほしい」と話します。世界遺産に登録されたときは、世界の人に大野集落のことや大野教会のことを知ってもらいきっかけになると喜んだそう。

訪れた人に説明をする中で、一番伝えたいのは、この地域の先祖が迫害という悲しい歴史を乗り越え、どのように信仰を守ってきたのかということ。その先祖の意志の強さを感じてほしいと話します。

教会の中には入ることはできませんが、素朴ながらも力強く建っているさまは外観から十分に見てとれます。

ド・ロ神父が信徒たちと協力して造った、台風にも強い実用的で丈夫な大野教会。

大串さんにとって大野教会は「心のよりどころ」。これからも教会を守り、訪れた人に歴史や信仰について語り継いでいきたいと話していました。



大野教会 教会守 大串 明さん

潜伏キリシタンが信仰を告白した

大浦天主堂

南山手町にある大浦天主堂は、潜伏キリシタンの「潜伏」が終わったことを示す構成資産です。

日本の開国に伴い、居留地の外国人のために宣教師が建てた大浦天主堂。建立直前の1862年に、長崎で殉教した日本二十六聖人にささげられた教会であり、殉教地（現在の西坂公園）の方角を向いて建てられています。

天主堂完成直後の1865年には、長崎近郊の潜伏キリシタンが密かに大浦天主堂を訪れ、宣教師に信仰を告白。約2世紀を経て、信徒と宣教師が出会ったこの出来事は「信徒発見」と呼ばれています。

日本に信徒がいたことを発見したプ

ティジャン神父は喜び、フランスとローマに報告したそうです。

ただ、この出来事はまだ日本でキリスト教が禁教だった頃に起こったため、当時信仰を表明した潜伏キリシタンには厳しい弾圧が加えられました。

しかし、諸外国の抗議を受け、明治政府が禁教令を解いたことによってキリスト教の禁教が終わります。

二度の増築の末、もとは木造だったものが煉瓦造りになって現在の天主堂になりました。内部の主要部には建立当初の面影も残されていて、現存する日本最古の教会建築として国宝にも認定されています。



教会巡りはマナーを守って

教会は「聖なる建物」で、信徒のかたの大切な祈りの場。そして「神の家」でもあります。教会を訪れる際はマナーをしっかりと守りましょう。

- 堂内では帽子を脱ぐ
- 堂内外では静かに見学する
- 堂内では飲食、喫煙をしない
- 堂内で撮影をしない
- 酒気帯びで堂内に入らない
- 柵内や内陣（祭壇域）、2階などには入らない
- 堂内にある物（聖書などの私物）には触らない

今回ご紹介した出津教会堂・大野教会堂の見学は、事前に連絡が必要です。

構成資産のパンフレットももらえます！

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

インフォメーションセンター

☎ 823-7650(午前9時30分～午後5時30分)

住所：出島町1-1-205(出島ワーフ2階)